



## 因果応報

仏教の教えに「因果応報」という言葉があります。

簡単に言えば、善い行いをすれば善い報いがあり、悪い行いをすれば悪い報いがある、というような意味で使われています。

さて世の中の多くの事象は、個々人の行為の善し悪しとは別次元の、時代の変化や文明の発達の結果として、必然的にもたらされるものが多いといえます。

我々人類の歴史は、46億年といわれる地球の歴史に比べれば、ほんの瞬きの一瞬ですが、地球上に生存する生物のなかでは最優越生物として地球という惑星を支配している位置づけられています。

そしてこの数百年間の間に、科学技術の発達によるいわゆる数次の産業革命を経て、豊かな物質文明を享受できるようになりました。

まさに、生活や産業を支える電気などのエネルギー、自由で高速な移動手段としての航空機や自動車、そして社会構造を変えたコンピューター、スマホなど、様々な便利で高度な物を手にし、また農業の進歩により安定的に食糧を確保できるとともに医療技術の進歩により、寿命も飛躍的に伸びました。

しかし、このような近代文明の流れの全てが「吉」と出るものではないという現象が最近とみに多くなっているのではないかと思います。

世界各地で、100年に一度、50年に一度という豪雨が毎年のものになり、多くの人命が失われ、街が壊滅するような被害が生じています。

また、その逆に極度の干ばつによる自然発火は広大な山林火災を引き起こし、熱帯地域では緑が失われる砂漠化現象が広がっています。

まさに、化石燃料の使い過ぎによる地球の温暖化によるものとされ、エネルギー源の転換が目下の人類的課題になりました。

また、国際化、グローバル化は、移動の自由、交易の拡大という恩恵をもたらし、国を超えた観光が爆発的に拡大し、多くの工業製品も国際分業化の流れが盛んになりました。

しかし、今回の新型コロナウイルスの発症においては、一瞬のうちの世界的拡散という結果や、工業のサプライチェーンの大混乱をもたらしたことも事実です。

よかれとされる行為も、別の側面から見ればよくない行為にもつながり、結果悪い報いを受けることもあるということではないでしょうか。

「因果応報」という教えの本質を振り返ってみることも、時には必要な時代になったような気がします。